

8 たけのこ

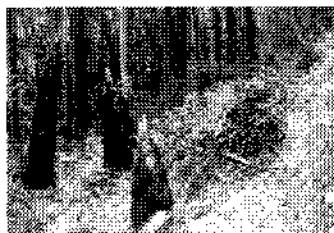
丸森町は、竹林が多い。八巻矢城線沿いにも見事な竹林が広がっています。これは、ほとんど孟宗竹なので自然に生えていたものではなく、地元の人が植えてできた林です。

孟宗竹の起源は、中国江南地方で日本への伝来は 1736 年琉球から島津藩に導入されたという説と 1661 年隠元禪師（インゲン豆の隠元です。）によって京都宇治のお寺に伝来したという説があります。その名前の由来は真冬にたけのこを食べたいという母親のために息子「孟宗」が山に入って筍を探ったという逸話から名付けられています。

孟宗竹の北限は宮城県から岩手県南部あたりでそれより北では成長があまり良くありません。宮城県への伝来は 1760 年頃滋賀県から仙台に導入されたという説があり、耕野地区にはその後となりますが、伊達藩の直轄地であったことから比較的早い時期に導入されていたと考えられます。

いずれにしろ、竹は、食用、建築資材、生活用具の材料の他、急斜面の崩壊防止植物として古くから利用されてきたものです。最近では、竹の炭「竹炭」もいろいろな方面で利用されています。

この耕野地区では、春のたけのこ狩りが有名です。詳しくは下記のところまでご連絡下さい。



電話：0224-75-2111
(やしまや)

22(4) 方言

【け】

けえすで	つり銭、おつり
けいっちゃ	洋服を裏返しに着る
けづぬげ	部屋を出るときにふすまを閉めずに出て行くこと
けむて	煙い
けろっとしてる	平気である

【こ】

ごいら	いきなり
こえ	疲れた
ごっしやぐ	おこる
ごしっぱらやげる	腹が立つ
ごしゃがれる	しかられる
こつけ	育ちが悪いこと
こっぱずがすい	ひどく恥ずかしい
ごで	夫
こばがくせ	ばかばかしい
こんじよすい	人がよい

【さ】

さぐず	米ぬか
さっぱど	こぎれいにする
されかまね	放置しておく

22 (3) 方言

かさこ	かさぶた
かしぐ	働く
かしろ	食わせろ
かだびっこ	靴を片方しか履いてない状態
かつける	責任をなすりつける
かなすがり(たれかこがし)	体やみ、かばねやみ
かんまがす	かきまぜる
【き】	
きがされる	説教される
ぎったんばっこ	シーソー
きどごろね	うたた寝
きりごみ	イカの塩辛
きりばん	まな板
【く】	
ぐえわり	具合が悪い
くつつぐて	くすぐったい
くったけすね	満腹感がない
くっぺこねべ	来ようが来まいが
くどぐ	愚痴を言う
ぐりわ	まわり

9 ころかき(干し柿)

かきばせは、干し柿を作るため、むいた柿を簾(すだれ)のようにして干す場所のことをいいます。「柿」用の「はせ」(稲や麦・大豆などのたばを干すために竹や木を利用してつくる乾燥場)なので、こう呼ばれるのでしょうか。この農道沿いでもそちこちに見ることができます。

丸森町ではこれが晩秋の風物詩になっています。特に皮むきが最盛期である11月にはすっきりとした秋空をバックに映えるオレンジ色のすだれは、ほっとするような懐かしい風景として、訪れるものをなごませてくれます。

しかし、農家の人たちはのんびりもしてられない程忙しいはず。作業工程は

柿収穫→へた取り→皮むき→運ぶくり→蒸蒸
→乾燥(かきばせ)→包装・箱詰め

となります。この行程が11月から3月までおよそ5ヶ月続きます。けっこう大変な作業です。丸森町では、この干し柿をつくるツアーも企画しています。作り方やツアーについて詳しく知りたい方は下記まで。

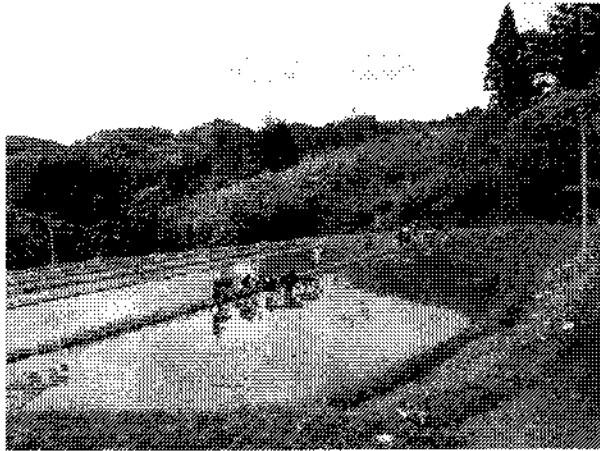


かきばせ

電話：0224-75-2111 (やしまや)

10 雑木林

雑木林と棚田が溶け込み、耕野の風景をつかさどっています。広葉樹が中心となった森林で、人里に隣接しています。集落には炭窯があり、ナラ・ブナ・カシ・クヌギなどの木材を炭にして、日常生活に使ってきました。



耕野の棚田と
雑木林

耕野の炭窯



22 (2) 方言

うそごち	うそつき
うるがす	水に浸して水分を含ませる
うらげす	裏返し
うわか	表面
うわすぢ	敷布
【え】	
えらすこい	可愛い
えらすぐね	可愛くない
えらっぼい	いがらっぼい
【お】	
おがすね	へんな おかしな
おがだ	妻 女房
おしよすい	恥ずかしい
おするす	心づけ 寸志
おだずな	ふざけるな
おっかがる	よりかかる
おっぱなす	ほったらかしにする
おでって	お手伝い
おどげでね	冗談でない
おどすつける	しかる
おどでな	一昨日
おほこ	赤ん坊、子供っぼい
【か】	
がおる	元気がなくなる
がが	妻
かがんな	かかっていくな

22 (1) 方言

【あ】	
あうえーぬ	ときどき
あくしよ	くしゃみ
あぐど	かかと
あげいしよ	晴れ着
あげっぱなす	開放している状態
あずだす	思い出す
あすなさ	明日の朝
あっぺとっぺ	とんちんかんなこと
あんにや	兄
あんべわり	具合が悪い
【い】	
いっちやう	ばったりと出会う
いちばる	りきむ
いげすかね	気に入らない
いぶくせ	焦げ臭い
いぼこ	でもの
いまのずぬ	いまのうちに
いまっと	もうすこし
【う】	
うげどり	分担、領収書
うっしょめえ	着物が前後逆
うーどもつーども	うんともすんとも
うらけえっちょ	うらがえしに着てた

11 ホタル

ホタルにはゲンジボタル、ヘイケボタルがいます。

ゲンジボタルはオス約 15mm, メス約 20mm で約 4 秒間に 1 回発光します。

ヘイケボタルはオス約 8mm, メス約 10mm で約 2 秒間に 1 回発光します。

ホタルの生息する環境は次のような環境が整っていることです。

- ・きれいな水
- ・ホタルの幼虫が隠れるための小石がある川底。
- ・ぬれている川岸。
- ・幼虫の時期にとまれる草木。
- ・川にカワニナが豊富に繁殖していること。



1 2 川と生きもの

芦沢川には、昔はカジカやウナギがいました。現在は、ヤマメ、ハヤ、モクスガニ、ドジョウ、ツブ、カワニナ、サワガニ等がいます。



ヤマメ



モクスガニ

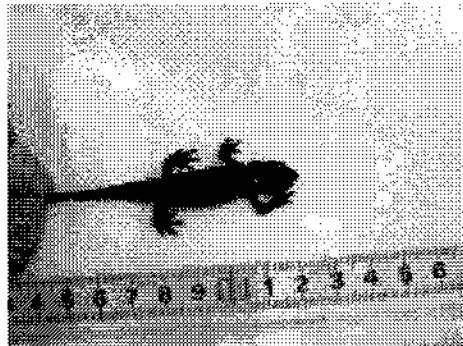


アブラハヤ



カワニナ

(ホタルの幼虫の餌になります)



イモリ

(棚田のため池にいました。)

2 1 芦沢がったり村憲章

- 一、いい家風を持つべないん
- 一、いい仕事ばもつべ、作っべないん
- 一、村ん中さ生きがい見つけべないん
- 一、感謝の心ど・感動ど笑顔の溢れる村にすっべないん
- 一、「がったり」のようにゆっくり・力強く・村づくりしてくべないん

今までの主な取組み

- ・盆踊り大会・・・芦沢ニコニコクラブが昭和62年に復活
- ・田植え祭り収穫祭・・・平成14年から大久保の棚田で始める
- ・男がたり完成・・・平成14年に出来た水力利用の精米機
- ・女がたり完成・・・平成16年に出来た水力利用の精米機
- ・つるべがたり完成・・・平成16年に出来た水力利用の精米機
- ・芦沢集会所と広場・・・平成17年にみんなの力の結集でできた

これからの取組み

◆新規作物の導入

- ①ムラサキシメジ、②ブルーベリー、③サワガニ

◆クラインガッタリン（村民農園）村民の協同で計画から完成まで過程を楽しむ

- ①看板作り・・・集会所、屋敷入り口、棚田のの看板
- ②施設整備・・・ツリーハウス、休憩棟、宿泊棟、研修棟、水車、風呂、トイレを自然素材でつくる。
- ③その他・・・生きもの調査、耕野芦沢散策ガイド（小冊子）耕野芦沢マップ、かわら版の作成、テントサイト（集会場前広場）、JICA（国際協力機構）と連携による国際交流、クリーンエネルギーの検討研究（小水力発電、ソーラー発電）

20 山林オーナー 「がったり村開村」

平成19年6月3日に、「芦沢がったり村」の開村を宣言し、「村民」の募集を始めました。

「村民」は集落に移住せずに、山林や田畑を借りたり、盆踊りや収穫祭など地区の行事に参加できます。「住民」の一人として山村の暮らしにふれることができます。

① 行事招待

(田植え祭り、収穫祭、盆踊り)

② 定住支援

③ 山林・農地提供、農林業体験支援

④ 災害時の食糧・住居援助支援 ⑤ 村の情報提供

⑥ 年一回、山菜やたけのこ等の特産品のプレゼント

村民税 (年会費)

家族1万円、個人5千円

土地のオーナー制については、別料金

(所有者との協議で決定します。)

連絡先 地場産品直売所

「あがらいん伊達屋」

TEL・FAX 0224-75-3175



13 田植え祭り・収穫祭

田植え祭り・収穫祭は、耕野芦沢地区が、都市との交流・地区内交流をおこなうために開催するものです。耕野芦沢の原風景にあこがれる都市住民に対し、農業体験の場、郷土料理を提供しています。田植え祭りは平成14年から始まり、平成19年で、6回目になります。

田植え祭りは毎年6月上旬の日曜日、収穫祭は10月下旬の日曜日に開催しています。

— 収穫祭の内容 —

9:00 豊作祈願

9:15 田んぼの手植え

11:30 宮城教育大学民俗芸能研究会「びっきい」

による中野七頭舞・三宅島太鼓

11:45 耕野小学生によるぶちあわせ太鼓

12:00～ 青空重箱祭り (さなぶり大会)

お問い合わせ先

電話: 0224-75-3175 (あがらいん伊達屋)



棚田101選 (岩手大学 広田教授 命名)

14 ふるさと交流センター

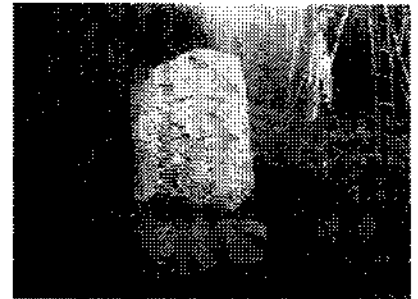
耕野ふるさと交流センターは、平成6年に中山間地域農村活性化総合整備事業を活用して耕野地区の都市農村交流施設として建てられました。ここでは、たけのこ狩り、柿加工体験、農産加工品の製造など交流イベントの場所として、また地域住民のコミュニティの場として利用されています。

特にたけのこ狩りの拠点施設として有名です。



19 山神様（やまがみさま、 やまのかみさま）

山の神（やまのかみ）は、山に宿る神の総称である。山神（やまがみ、さんじん）とも言います。実際の神の名称は地域により異なりますが、その総称は「山の神」「山神」でほぼ共通している。その性格や祀り方は、山に住む山民と、麓に住む農民とで異なる。どちらの場合も、山の神は一般に女神であるとされており、農民の間では、春になると山の神が山から降りてきて田の神となり、秋には再び山に戻るといふ信仰があります。すなわち、1つの神に山の神と田の神という2つの性格を見ていることとなります。農民に限らず日本では死者は山中の他界に行き、祖霊となり子孫を見守るといふ信仰があり、農民にとっての山の神の实体は祖霊であるという説が有力です。正月にやってくる年神も山の神と同一視されています。ほかに、山は農耕に欠かせない水の源であるということや、豊饒をもたらす神が遠くからやってくるという来訪神の信仰との関連もあります。猟師・木樵・炭焼きなどの山民にとっての山の神は、自分たちの仕事の場である山を守護する神です。農民の田の神のような去来（きらい）の觀念はなく、常にその山にいとされています。この山の神は一年に12人の子を産むとされるなど、山の神が山民にとっての産土神でもあったと考えられています。山民の山の神は禁忌に厳しいとされ、例えば祭の日は山の神が木の数を数えるとして、山に入ることが禁止されているようです。



平成19年4月27日
に建立されました

18 中山間地域等直接支払制度

前期対策（平成12年～16年）、新規対策（平成17年～21年）実施されております。農業生産条件が不利な状況にある中山間地域等における農業生産の維持を図り、遊休農地をつくらないこと、多面的機能を確保するために制度が作られました。耕野芦沢集落では、前期ならびに新規の対策を受けて活動してきました。

中山間地域とは、平野の外縁部から山間地を指します。山地の多い日本では、このような中山間地域が国土面積の69%を占めています。

また、耕地面積の42%、総農家数の43%、農業産出額の38%、農業集落数の50%を占めるなど、我が国農業の中で重要な位置を占めています。中山間地域は流域の上流部に位置することから、中山間地域の農業・農村が持つ水源かん養、洪水の防止、土壌の浸食や崩壊の防止などの多面的機能によって、下流域の都市住民を含む多くの国民の財産、豊かな暮らしを守っています。

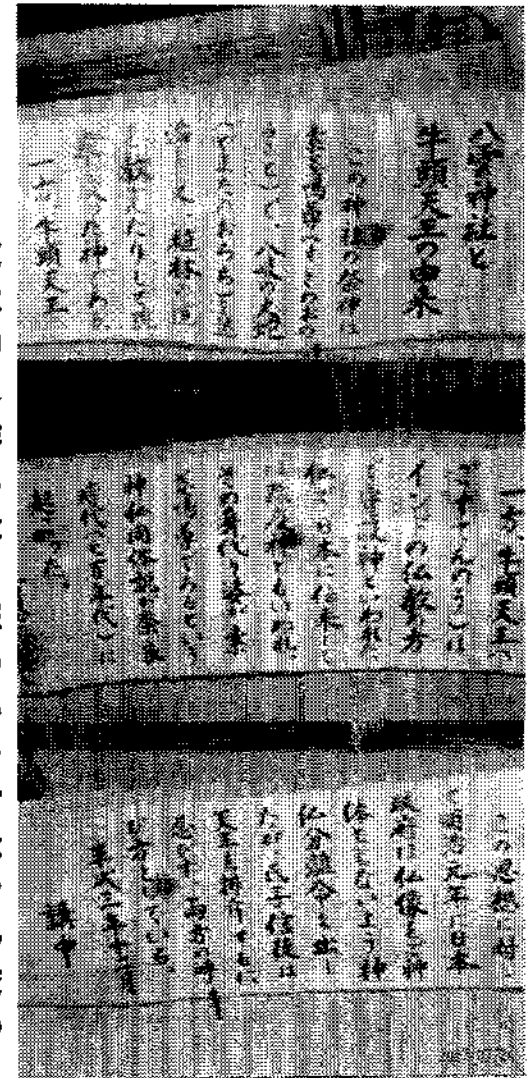
農林水産省HP（ホームページ）より引用

15 八雲神社 ・やまつみ神社

八雲神社（やくもしんじゃ）という名前の神社は日本各地に存在します。その多くはスサノオを主祭神とする神社で、社名は日本神話においてスサノオが詠んだ歌「八雲立つ出雲八重垣妻籠に八重垣作るその八重垣を」の八雲に因むものです。総本社は京都の八坂神社です。他のスサノオを祀る神社と同様、江戸時代までは「牛頭天王社」などと称していたが、明治の神仏分離により「牛頭天王」という社号が禁止されたため、祭神を牛頭天王と習合していたスサノオ

に変え、社名もスサノオに因んだものに変更したものです。

カイコの神様、山津見神社、金華山が祀られています。



16 阿弥陀堂



左側 子守堂 右側 阿弥陀堂 (本堂)

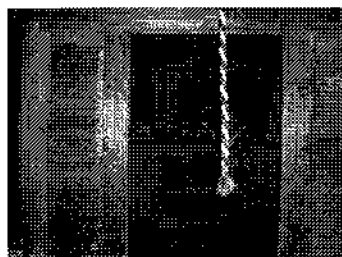
●阿弥陀堂

建立された時期は不明です。

阿弥陀堂の風格、様相は平泉建築の流れを組んだもので、奥州藤原文化が東北一円に広がっていたことを示しています。

●阿弥陀如来坐像

昔、阿弥陀如来座像が1体、奉納されていたと言われてい
ます。現在、御本尊の阿弥陀如来像が3体、奉納されています。
阿弥陀如来像は子供に優しいと言われてい
ます。昭和初期、
子供が阿弥陀如来像にひもを付けて引きずってへドロ田（
澁田）を歩いていたら、それを見たおじいさんが「阿弥陀如来
像を粗末にしちやいかんと」子供をしかりつけたそうです。
それから、そのおじいさんは病気で寝込んでしまったそう
です。そのおじいさんは阿弥陀如来像に謝ったら、そのおじい
さんは元気になりました。それだけ、阿弥陀如来は子供を大事に
してくれる仏様です。この敷地で、子供が遊んでも大きなけ
がはこれまでないとうことは、阿弥陀如来像が子供を守って
くれているのでしょう。



阿弥陀堂 (本堂)

17 耕野芦沢集会場

中山間直接支払制度（前期対策 H12～H16）で共同活動の積立金を資本に集会場を新築しました。土地は地元の方の好意で貸していただいています。建物は前期対策の協同活動の積立金で建設したものです。普段は、集落の会合等に使われています。共有地にはブルーベリーを秋に定植する予定です。3年後には、ブルーベリーの摘み取り園をオープンする計画をしています。また、駐車場では夏は盆祭りを開催しています。このように、芦沢集会場を農地・山林のオーナー制度等、多角的な利用に活用する計画があります。

